

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム東町		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44-1		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2172101202-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋で日当たりがよく、内装はナチュラルな木目調でやわらかい空間になっています。毎日の清掃は利用者と職員がしっかり行い清潔保持にも努めています。平均介護度2ということもあり、比較的身体機能が保たれてる方が多く、家事全般を分担して行ったり、外出に出掛けたりと活動的に過ごされています。また、個々の心身の状態や生活歴の把握に努め、本人・家族の意向を大切に個別の対応をとっています。地域との関わりとして、広報誌の回覧、避難訓練の参加、公民館清掃のお手伝い等で交流を深めています。協力病院が近隣にあるため、異常があった場合でも早急に対応していただき、また、協力施設とは合同で行事を開催したり、緊急時の対応にも連携をとっています。

職員一人ひとりが、理念に沿った支援ができるよう、ユニット毎に毎月目標を決め、職員間で共有し、実践しながら目標達成に取り組んでいる。全職員は内・外部研修にも参加し研鑽を広め、「業務改善案」を提出して自由に意見や提案ができる機会を設け、職員が向上心を持ち、やりがい感をもつ環境づくりに努めている。利用者ごとに担当職員を置き、利用者の意向や、要望を早期に気づき、介護計画や日常の暮らしに反映させている。利用者の自立度が高く、個々の持てる力を活かし趣味の手助けや、友人・知人との外出等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。地域とつながりを大切に考え、季刊誌「こもれび」を回覧し、事業所の暮らし振りを知らせ交流を図っている。家族会の日帰り旅行は利用者の癒しと、家族間の交流の場で、楽しみの時間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの思いを大切に、入居後も自宅で行っていた習慣の継続ができるように支援している。また、地域の方々とのかわりやインフォーマルなサービスも生活の中に取り入れている。	事業所の理念に沿った介護目標を、毎月ユニットごとに立て、管理者・職員は利用者を敬った挨拶や、会話を多くしたケアが実践できているか振り返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練は地域の方々で行い、その後に認知症を理解していただくため、一緒にお茶を飲みながら楽しい時間を過ごしている。地域の方々もホームでの暮らしぶりを知り安心されている。	季刊紙「こもれび」を自治会で回覧してもらい、事業所の様子を知らせている。利用者の100歳誕生日を職員の企画により、地域住民に働きかけ持ち寄りで祝い、繋がりを深めた。公民館清掃に参加したり、地域の人と利用者と同乗したりしながら交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練等の地域の方とのふれあいの中で、相談窓口としてお話を聴いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の現状や生活の様子・事故・苦情等を報告し、参加者に助言や提案を受けている。	会議では利用者の状況・行事結果報告と次回予定・人事・研修等、事業所の現状や外部評価の結果を報告し、メンバーから意見や提案を受けてサービスに活かしている。議事録は作成しているが、家族に配布されてなく、周知されていない。	会議録を家族に報告し、さらに意見や提案がもらえるような会議を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会や連絡会・ケアマネ会議等で担当者とかかわりを持っている。現状で相談する困難事例は特にはない。	会議等には積極的に参加し、情報交換しながら、市担当者とも馴染みの関係づくりに取り組んでいる。利用者の100歳誕生日についても相談に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、職員間で身体拘束についての研修を行っている。必要と思われる事例においては、事前にご家族と相談し検討している。玄関は死角になるので施錠しているが、代替としてリビングから中庭へは開錠している。	研修に参加し、言葉も拘束・虐待に繋がることを職員と話し合っている。夕方玄関先に出て、下校時の子供に声をかけることで、不穏になる利用者を拘束しないよう工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事を全職員に周知し、虐待防止についての認識に努めている。安全・安心に生活できる環境維持のため、心身の状態の変化には常に気を付け対応している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、職員間で研修を行っている。現在、権利擁護等を利用している方はみえないが、今後は成年後見制度も含め必要になると思われるため職員間で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は口頭や文書にて行っている。不安や疑問点に関しては親身にお話を聴き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当職員と一緒に外出したり、ご家族へのお便りを記入して関わりを密にとっている。入居者、ご家族共に満足度アンケートを行い要望や意見を吸い上げてケアに反映させている。	利用者・家族それぞれに満足度アンケートを行い結果を見て改善している。家族会ではテーマを決めてグループで話し合い、感想や要望を聞いている。毎月発行の「東町たより」に担当職員のメッセージコーナーを設け近況を知らせ、訪問時に意見要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で上がった意見は運営会議で話し合い検討している。職員数や勤務時間の変更等も現場の意見を反映し決めている。	管理者は、職員に「業務改善案」を年1件以上の提出や、ケアの気づき用紙からの内容を会議等で検討し、運営に反映させている。ユニット会議で設備・環境整備等の提案もあり、その都度法人関係者と相談している。職員はユニットリーダーに気軽に意見・要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者への勤務態度や実績等を考慮し、給与水準を調整している。経験・勤務年数によって責任のある仕事に就き、自身が成長ができるような取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修で学んだ事を内部研修をして他の職員へ伝達している。協力施設との合同研修会や発表会も開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGH・少規模多機能事業所と1回/年は合同で家族向けの研修会を開催している。今年は「認知症について家族と共にかんがえる」と題して講師の方に講演していただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の暮らしぶり・思いを聴き、入居しても継続して行えるようなプランを立案している。職員は本人や家族とコミュニケーションを図り、意向の達成に向けての取り組みをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いが違う場合は、双方ができるだけ納得できるような支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思い・心身の状態を考慮し、優先すべきサービスをケアプランに上げてケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を見極め、身の回りの事や共同生活する中でその人ができることを役割としている。ひとりではできないことも、職員と一緒に行うことでやりがいや楽しみが広がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困難な状況が発生した場合でも、主治医や職員のみで決定せず、家族も含め一緒に考えている。それぞれができることで連携しケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の仲間や近所のお友達が度々、面会に来て一緒に過ごされている。手紙を出して関係の継続をされてる方もみえる。	日帰りや一泊旅行で家族と一緒に出かける機会を多く作っている。又、訪問者にも継続できるよう声かけし、接待している。隣接施設のカフェで友人と過ごせる機会も作っている。年賀状や文通を手伝い、馴染みの関係の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、全員が気持ちよく生活できる環境づくりに努めている。同じテーブル間でレクリエーションを行ったり、食事の下膳を分担して行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力施設へ移られた方々には、なじみの利用者・職員と面会に伺っている。家族から相談があれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が本人と関わる時間を多く持ち、思いや意向を汲み取っている。	日常の言葉や暮らしから気づいたことを、センター方式に記録し、利用者の意向として担当職員を中心に共有している。自分で洗濯をしたい、買い物に行きたいなど要望にも応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からのアセスメントやセンター方式を取り入れ、その人の生活全般を知り、ケアに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午後から居室で休まれる方、テレビを見る方、手紙を書く方、それぞれで思いのままに過ごせる環境づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で日ごろの様子や課題を話し合い、ケアの変更または継続かをモニタリングしている。医療的なことは主治医から意見を聞き、対応している。	担当職員がモニタリングした結果で計画案を作り、ユニット会議で検討している。それを基に、家族の訪問時等で聞いた要望や看護師や医師の意見を取り入れて、職員全員で検討し作成している。状態の変化に応じて見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきを記入する専用の用紙があり、会議での検討内容として活用している。3ヶ月に1回のモニタリングでケアの実践が行われているか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診付き添いできない場合は、職員ができるだけ対応している。共有型デイサービス利用者はその後入居に至っても、環境に馴染んでおりスムーズに入居できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	百寿のお祝いには市長が訪れ、近隣の会席料理屋から借りた衣装を着てみんなでお祝いをした。その模様をケーブルテレビで放映していただいた。母は本当に幸せ者だと家族も大変喜ばれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族に決めていただいているが、緊急時に連携が図りやすいと協力医療機関へ代わられる方が多い。2回/月の回診で診察して頂き関係性を築いている。	本人・家族の納得の上、協力医に変更して訪問診療を受けている。専門医への受診は、「受診連絡表」を持って家族が付き添い、結果を協力医とも連携している。利用者の状態変化時は速やかに医師と相談できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化が見られたときは、すぐに看護師に連絡し、支持によって家族に受診の依頼をしている。早めの対応で悪化防止に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、約1ヶ月間は居住費のみを頂き居室を確保をしているため、安心して入院治療を受けていただいている。また、退院時に受け入れが困難な場合は、協力施設と連携を図り状態にあった環境で生活できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての事業所の方針は入居人に説明し理解を得ている。主治医・協力施設と連携を図り、その人にとっての一番良い環境での生活を支援している。	契約時に終末期の方針を説明している。立位が困難になった時や、医療行為が継続して必要になった時など、その都度、医師・家族等と話し合いをしながら事業所のできる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを職員は周知し、迅速な対応がとれるようにしている。新人職員を中心に心肺蘇生の研修等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練では地域の方々の協力を得て、避難誘導を一緒に行っている。水防法の制定によって水害時のマニュアルや訓練も検討している。	前回の外部評価の結果を踏まえて、地域住民の協力をえて夜間想定訓練を実施している。運営推進会議で訓練を振り返りいろいろな意見・提案を受けているが、改善に向けての話し合いがされていない。	訓練からの課題の検討を期待したい。又、水害時のマニュアルの検討も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴を知る事で、一人の人として向き合い、尊厳を持ってケアに携わっている。居室の扉には鍵が付いており、プライバシーが保たれ、ひとりで過ごす時間も大切にしている。	排泄・入浴時には、本人を尊重した声かけに注意している。本人の希望で夜間居室の施錠をしている人もいる。入室にはノックや声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好む場所(映画・外食・散歩・買い物等)に出掛けている。その場合は自己決定ができるようにメニューや値段等をきちんと説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を基本としているが、気ままに過ごす事の大切さも職員は把握し、ストレスが溜まらないような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	古着を自分で仕立て直し、普段着として着ておられる方やブランドの洋服や宝石を身に付けられる方もみえる。美容院でカラーを定期的にされる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し・下準備・配膳・片付けなどを一緒に行っている。誕生日にはその方のリクエストメニューを献立としてをみんなで食べている。	利用者と相談しながら献立を立て、食材の買い物に出かけている。職員と共に、配膳・下膳・お盆拭きなどしながら食卓を囲み笑顔が見られる。職員は柿むきを教えてもらいながら「吊るし柿」にするなど利用者の力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食担当が随時、旬の食材や食事量の目安を情報提供している。昼食時は職員と一緒に同じものを食べているため、摂取量や味付けについても把握しやすい。体重・血圧を管理して量や塩分量についても配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口臭のある方には専用の歯磨き粉を使用し、嚥下機能が低下している方には、スポンジブラシとジェルで対応している。必要に応じて協力歯科で検診や治療をしている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、時間で誘導やパット交換をしている。入居前はオムツを使用していた方が、日中は布パンツになり、夜間もトイレへ行かれるようになった事例もある。	オムツはずしができた事例を参考に支援している。医師と相談しながら服薬を調整し尿漏れもなくなった。夜間も睡眠を妨げないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には食物繊維の多く含んだ食事と運動のために毎日、定期に体操を行っている。ティータイムにバナナ豆乳や梅酢を提供して美味しく予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は3回/週の決まった曜日を設定しているが、本人の気分や体調によって中止したり、時間や曜日の変更をしている。足・手浴も必要に応じて行っている。	入浴時間は希望に合わせている。好みのシャンプー、入浴剤、柚子湯、保湿クリームなど個別の望みに応じている。浴室が広いので、冬場は特に早朝から浴室を暖め気分よく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングはテーブル席やソファがあるので、それぞれの好みの場所でくつろいでいただいている。夜間は季節に合わせてエアコンやコタツを使用し、気持ちよく入眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時は、申し送りノートに記載し、職員全員が把握するよう努めている。副作用の症状が見られたら、医師や看護師に報告し調整を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意向や能力に応じて家事全般の役割をもっていただいている。それぞれが好む外出を計画したり、嗜好品を購入し生活の中で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望は、職員の数にもよるが、午後は比較的時間が取れるため意向にそって対応している。家族会として名古屋港水族館へ行ったのは皆さん大変喜ばれた。	行事の家族旅行は参加者の憩いと親睦の場となっている。買い物に行きたい、教会に行きたいなど利用者の個別の要望を叶えている。散歩時に、隣接の足湯に寄ったり、果実を採ったり、住民と語り合ったりしている。外食や墓参りなど外出する機会を多くする工夫をしている。	

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向でお金を所持してみいる方もいる。買い物時はできるだけ本人が支払うような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人に電話したり、手紙を書いたりしている。年賀状・暑中見舞いは各々職員と一緒に手作りして出したい方に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには中庭で咲いた花や家族が持ってこられた花を活け、壁面は季節ごとに飾りを変え季節感を取り入れている。清掃は毎日しっかり行き、不快な臭いや汚れが残らないように清潔保持に努めている。	利用者がリビングや玄関・トイレに季節の花を生けている。趣味の折り紙・手芸を飾り、毎日お経をよむなど生活感がある。箒・雑巾は所定の場所に置き利用者が清掃している。ユニット間や中庭に自由に行き来でき思い思いに過ごすことができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室になっているため、本人の思いに沿って居室でお琴を弾いたり、DVDを聴いて過ごされている。気の合う仲間とはソファに腰掛けお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具・衣類・本などを持参していただいている。床に畳みやじゅうたんを敷いたり、自身の物干しを購入し、手洗した衣類を干している。それぞれの過ごしやすい環境の提供を心がけている。	机を持ち込み、書籍・書・折鶴など自分の趣味を活かした物を置いた居室にしている。手紙を書いたり・俳句を作ったり、毎日家族が持参する新聞を読んだりするなど自分らしく過ごせるよう工夫している。湿度に注意し濡れタオルをかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴時には、準備する衣類が書かれたパネルをかごに入れ、それを見ながら用意していただいている。また、カレンダーに予定を記入し、外出や行事がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム東町		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44-1		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101202-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの生活歴や思いを知る努力をし、その方に必要なサービスの提供をしている。コミュニケーションを大切にアットホームな環境での生活を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの様子を知っていただくため、季刊誌を回覧板で地域の方にお知らせし、協力施設の喫茶店に数部置かせていただいている。定期的に公民館清掃に参加し、避難訓練時と一緒にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練を一緒に行なった後には、地域の方々と一緒にお茶を飲みながら、認知症の方々の理解に努めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子やケアの取り組み等を報告し、参加者から様々は意見をいただいている。地域の行事や高齢者にまつわる事件等を聞く機会としてかわりを大切にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、市へ報告するような困難事例はないため、会議や研修会等で情報を得たり、必要に応じてコミュニケーションを図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新聞等で拘束についての掲載があり、職員間でも関心を持って対応している。毎年、研修会を行い、身体拘束について理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待についての研修を行い、尊厳を持って対応している。入浴時には身体の確認・家族との関係性も把握しながら虐待が見過ごされないように努めている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の必要性を把握し、前年度の研修をきっかけに、ご家族へも感心を持っていただくような支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に到るまでに、ホーム見学や面接を行い納得して入居していただけるよう支援している。また、改定等は書面でお知らせし、十分説明の上必要に応じて署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族へは満足度アンケートを実施し、要望を改善へと繋げている。苦情窓口は外部も含め3箇所設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で出た意見は運営会議で提案し、代表者等と検討している。1回/年は業務改善案を各自提出、ホーム全体の質の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの力量に合わせて、役職や係りの担当を持ち、やりがいを持って働ける環境作りに努めている。業務改善を繰り返すことで、時間外労働をなくし安心して長く働ける職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修費用が決まっており、職員が各々学びたい研修を選んで受講している。協力施設と共同の研修会や発表会もスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム合同で家族向けに研修会を開き、ケアマネ会議でも定期的に勉強会を行い情報交換を得てつながりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接で本人やご家族から情報収集し、入居してからどんな暮らしがしたいかの意向をお聞きしている。安心して入居できるように何度か見学等に来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅で介護ができなくなった経緯や入居してからの家族の役割等をしっかりと話し、お互いが離れて暮らしても安心して生活できる環境づくりが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態に応じて、受け入れが困難な方には、すぐにお断りせず他の事業所の情報提供や居宅ケアマネや市町村と相談する促しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりできることを見つけ、職員と入居者で協力して家事を行っている。レクリエーションについても職員は導入のみの支援で、後は入居者同士でカルタや百人一首を楽しまれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期受診・衣類交換・気分転換の外出や面会等をお願いしている。家族や自宅への執着が強い方への支援は、家族と連携をとりながら支援を続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同僚や地元のクラブ仲間の方々が面会に来て、居室でお茶を飲みながら、楽しくお話されている。また、家族がお店をセッティングしてお仲間とランチへ出掛けられる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居期間も長くなると、徐々に仲の良い方同士で固まる傾向にある。孤立防止のためレクリエーションや家事を一緒に行ったり、少人数での外出を企画しコミュニケーションを図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力施設へ移られるため退居された場合でも、職員が行き来して交流を図っている。また、入院し退居せざる得ない場合も、協力施設と連携し本人に一番過ごしやす場所の提供について相談・調整している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントで希望や意向をお聞きし、できるだけ対応できないかユニットで検討している。下着や靴下は自分で洗いたいとの意向のある方は、居室外に物干しを設置し、自分で洗濯の一連の行為を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活の様子をお聞きし、居室内の環境や生活習慣をその方に合わせて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午後から本を読み俳句を作られる方、テレビをみて昼寝をされるかたと、それぞれの心身の状態に合わせて1日を過ごしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気付きは、検討用紙に記入し、それを元にユニット会議で話し合い、ケアの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア・業務の変更は申し送りノートに記載し、職員間で統一している。日々の様子は介護記録に記入し、随時、モニタリング・評価しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院受診や行事に参加できない時は、職員が付き添い不安軽減に努めている。本人の意向を大切に家族と調整を図りながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長年住み慣れた地域の名所や名店を訪れる事で懐かしい場所や味を楽しんでいた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の意向に沿っている。定期回診や受診から異常の早期発見・早期治療に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な気付きはすぐに看護師に報告し支持を仰ぎ対応している。協力施設の看護師とも連携を図っているため、夜間も安心できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活に関する情報を提供し、治療が円滑に進むよう支援している。退院が決まったら病院と連携し、統一したケアができるよう職員間で情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居時の面談で話し合いを行っている。主治医や協力施設と連携を図り、本人が安心して過ごせる場所を一緒に検討・対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な急変症状に対するマニュアルは作成している。近年のインフルエンザやノロウィルス感染時には経験を元に、マニュアルの見直しを行なった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域の方々にも参加していただいている。最近、ゲリラ豪雨が心配されるため注意報や警報時は浸水しないように体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な言動は性質や生活歴・認知症等から呈するものと理解し、私たちと同じ思いや意向があることを把握している。本人や家族の思いそってケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当中心に、本人から思いや希望を聞き、アンケートとる事もある。毎日のお茶の時間は好みのものを選んでいただき、外出先も本人の意向にそっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間に起きられない方は、後で温めて居室内で召し上がっていただいたり、入浴や就寝時間も意向にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある洋服を着ていただき、宝石やスカーフでおしゃれをされる方も見える。白髪を気にされる方は、カットに加えカラーもしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材やメニューを取り入れたり、誕生日には本人が食べたいものをリクエストしていただいている。買い物から片付けまで入居者・職員で協力して行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重コントロールが必要な方には食事量の調整をし、水分量にも配慮し随時お出ししている。嚥下困難な方にはとろみを使用し、誤嚥性肺炎の再発防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっているが、うがいができない方や嚥下機能が低下した方にはスポンジブラシとジェルで口腔ケアし、定期的に協力歯科で検診している。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、時間で誘導やパットの交換をしている。排泄の自立に向けてできるだけ布パンツで対応するよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便の促しのため食物繊維の多い食事を心がけ、毎日の体操も日課で行なっている。便秘の方には牛乳や豆乳バナナを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活から基本の仕組みはあるが、その日の体調や気分によって時間や日にちの変更をしている。冷え性の方には手足浴も行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状態に応じて午後からベッドで休む方、居室で1人静かに過ごす方が見える。夜間は室温に応じてエアコンや電気コタツ・加湿器を使用し、安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神薬は時に副作用が出やすいので、服薬後の状態把握に努め、看護師や主治医と連携のうえ服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて家事やレクリエーションができるような環境づくりを居室担当が行なっている。楽器や本・CD等気分転換の用品も自宅から持ってきて使用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がよく、時間のある時は職員間で調整し、外出や散歩に出掛けている。今年は家族会で名古屋港水族館へ出掛け、家族との交流も深まり楽し時間を過ごされた。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で数千円程度を所持し、買い物時にそこから支払いをされる方もみえる。お金がない等の不安のある方には、お預かりしている金銭を確認し、安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が取れるという安心感を持っていただくために、電話や手紙の要望があれば、すぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時は私語を慎み、テレビを消し、オルゴールのCDをかける等、穏やかな環境づくりに努めている。リビングからは中庭が眺められ、季節感や開放感が得られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル椅子のほかにソファが2つあるため、仲の良い方同士や1人でも過ごせる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品を持ってきていただき、使い慣れたものの中で安心して過ごしていただけるようにしている。テレビやラジオ等も本人の意向にそって使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほうきや雑巾を所定の場所に準備して、自身で居室やリビングを掃除できるような環境を作っている。トイレの流すボタンにマークを付け、排泄後の洗浄をわかりやすくしている。		